

## UNISDR Science and Technology Conference に参加しました(2016/1/27-29)

テーマ：仙台防災枠組み・災害統計  
 場所：スイス、ジュネーブ

1月27日(水)から29日(金)にかけて、国連国際防災戦略事務局(UNISDR: The United Nations Office for Disaster Risk Reduction)の本部があるスイスジュネーブで開催された科学技術会議に参加しました。2015年3月、仙台で行なわれた第3回国連防災世界会議で採択された仙台防災枠組の実施に向けた、科学と技術の貢献について活発な議論が行なわれ、学界からは多くのポスター発表がありました。

当研究所からは、小野裕一教授、泉貴子准教授、伊藤拓也研究員(以上、情報管理・社会連携部門)、田所諭教授、イ・ケリオン助教(以上、地域・都市再生研究部門)がポスター発表を行ない、江川新一教授(災害医学研究部門)、杉浦元亮准教授(人間・社会対応研究部門)が意見交換と情報収集を目的に参加しました。

本会議では、仙台防災枠組に関連して、4つのワークストリームに分かれ、各国の事例の紹介と現在直面している課題について議論が行なわれました。小野裕一教授は、2日目のワークストリーム3のGroup 2: Generating, synthesising, and sharing data and knowledge for implementation and reporting のモデレーターを担当し、災害統計の整備・共有に関する議論をリードしました。

今後、本会議での成果をたたき台としながら各国・機関の意見を集約し、2月末までに仙台防災枠組の達成に向けた科学技術の貢献をまとめたロードマップが策定されることとなりました。



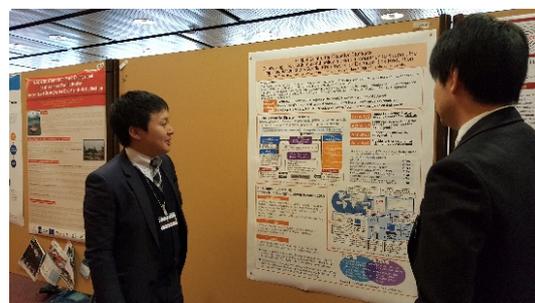
WS 3の Group 2(司会進行：小野教授)



ロードマップ; まとめ会議の様子



ポスター発表の様子(田所教授)



ポスター発表の様子(伊藤研究員)

文責：イ・ケリオン(地域・都市再生研究部門)、伊藤拓也(情報管理・社会連携部門)  
 写真：イ・ケリオン(地域・都市再生研究部門)